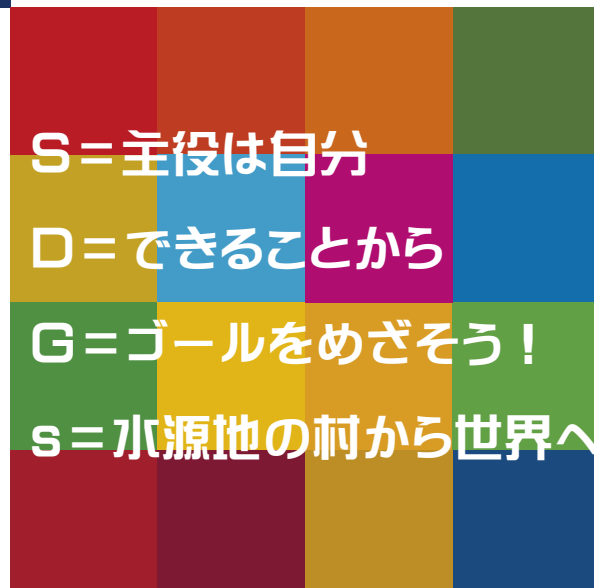


# 第2次川上村環境基本計画(概要版)

## 川上村のSDGs



### 川上宣言

水



私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らす者として、下流にはいつもきれいな水を流します。



産業

私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。

仕組み



私たち川上は、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値に触れ合ってもらえるような仕組みづくりに励みます

子ども



私たち川上は、これから育つ子ども達が、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくります。

環境



私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます

発行 令和2年3月  
発行者 川上村

連絡先 〒639-3594  
奈良県吉野郡川上村大字迫 1335 番地の 7  
TEL：0746-52-0111 FAX：0746-52-0345  
ホームページ：http://www.vill.kawakami.nara.jp

# I. 目的等

## <計画の背景>



### 「環境」「社会」「経済」の統合的向上をめざして

SDGs（持続可能な開発目標）の達成年である2030年に向け、ESD（持続可能な開発のための教育）についても、さらなる取組を促すこととされ、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくことを身につけ、課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことが求められています。

第五次環境基本計画は、これらの考え方を活用しながら、「環境・経済・社会」の「同時解決」を実現することが、将来に渡り質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていくこととしています。

## <計画の目的>



### 川上村らしく、自分にできる身近な実践からつなげ、広げるために

第2次川上村環境基本計画（以下「本計画」という。）は、第5次川上村総合計画に定めた将来像である「都市にはない豊かな暮らしの実現」に向け、持続性のある展開と村民の暮らしや営みへの定着を図るため、計画期間を2020～2029年度とし、その達成のGOALS(進捗の検証年)を、世界がめざすGOALSである「SDGsの達成年(2030年)」及びその達成に向けた「ESD for 2030」と協調させ推進することを一つの目的とします。

また、第五次環境基本計画が示す方向性をうけ、一人ひとりが日々の暮らしや営みの中において、自分にできることを考え、「川上村」で実践していくことが持続可能な社会を創造し、地球環境の保全につながり、結果として自らの豊かな暮らしに還ってくるような取り組みの、“担い手を育むこと”を二つ目の目的とします。

図 計画の目的



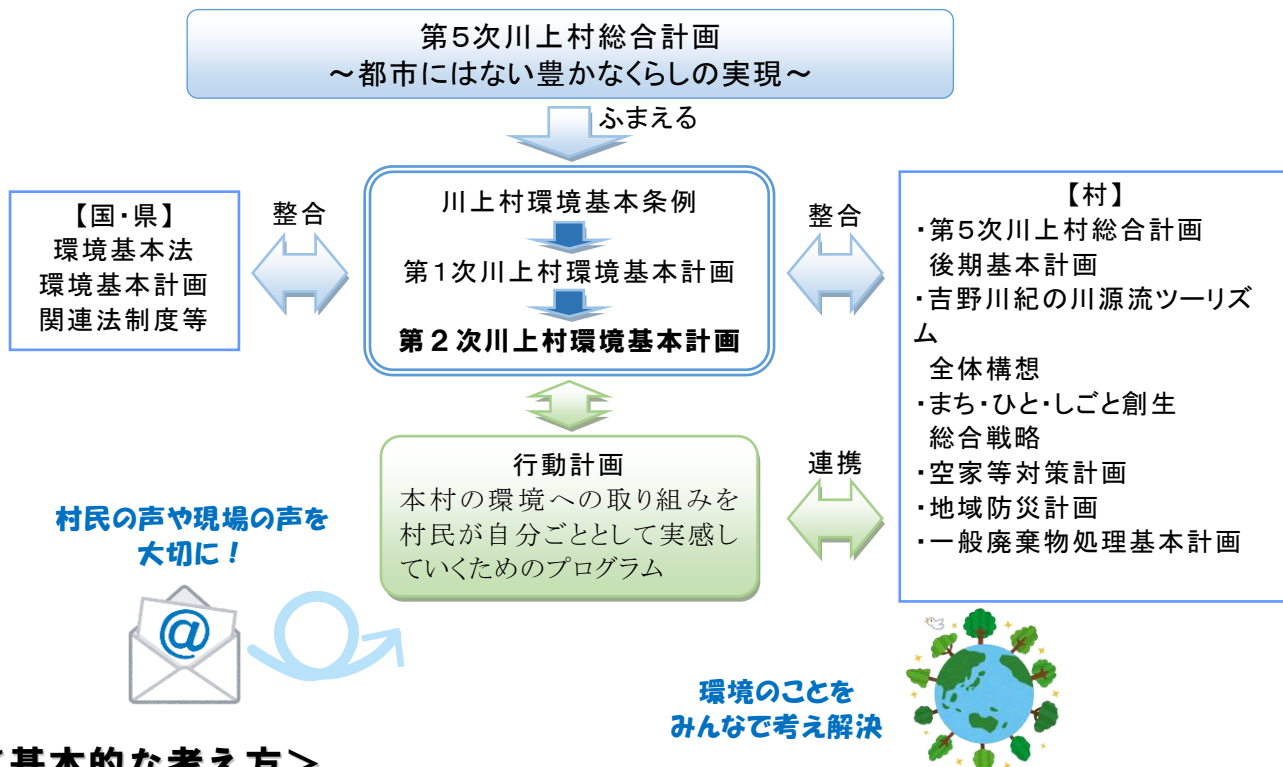
## <計画の位置づけ>



### みんなの声を大切に、みんなで解決できる仕組みづくり

本計画の位置づけは、次のとおりです。また、村民の声や現場の声を大切にし、環境のことをみんなで作成、解決していく仕組みを構築することにより、本村の環境への取り組みを村民が自分ごととして実行していくためプログラムを『行動計画』として位置づけます。

図 計画の位置づけ



## <基本的な考え方>



### 自分ごととしての取り組みは、自分へ還る

日々の暮らしや営みの場において、自らの気づきで、環境にやさしい活動を自分ごととして取り組むことが、水源地の村の自然環境、そしてあらゆる生命や暮らしの基盤である地球環境の保全につながり、その結果として豊かなそして、快適で便利な暮らしとして還ってくるという考え方のもと、その取り組みを進める世界の模範（川上村のSDGs）となるよう、本計画を策定します。



## <基本理念>

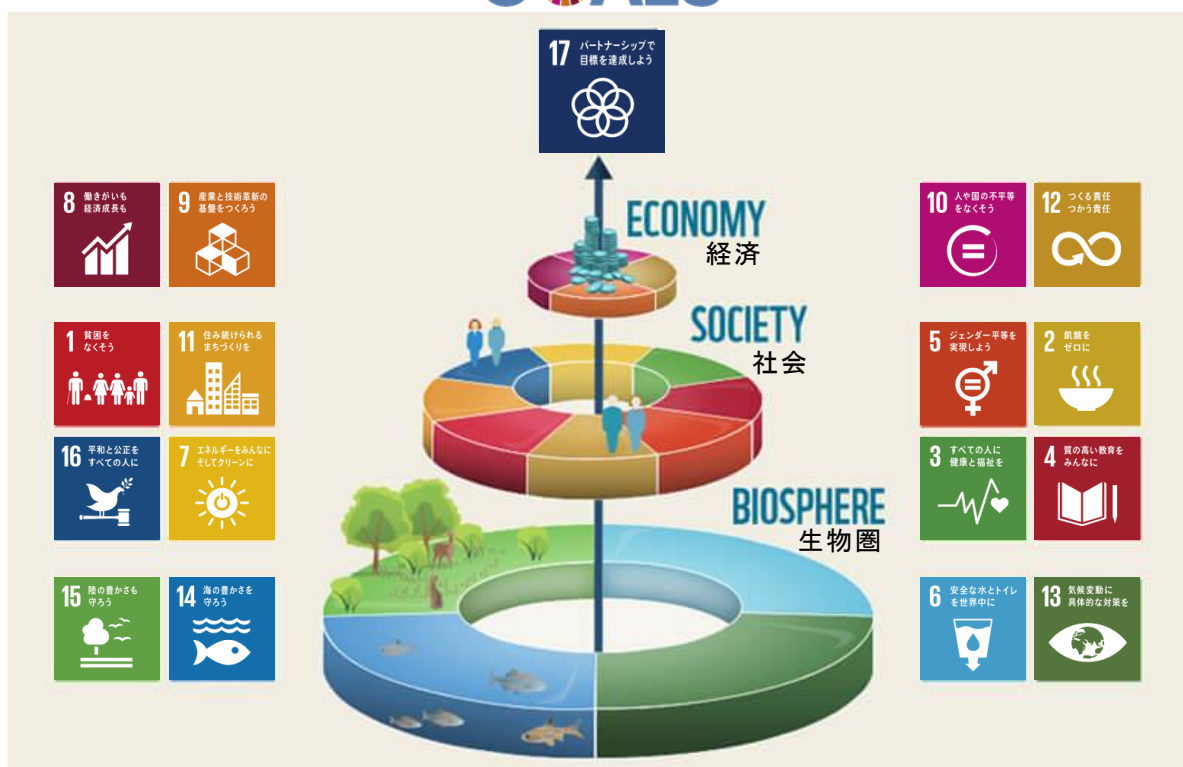


主役は自分。できることからゴールをめざそう！水源地の村から世界へ

### 世界がめざす共通の目標

達成年  
SDGs 2030

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



(資料:公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)の公式サイト)

SDGsとは、2016年から2030年までの長期的な開発の指針として示されたもので、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

本村においてもESDの考え方にに基づき、一人ひとりが自分にできることを考え、環境のことについて楽しみながら取り組んでいくことで、SDGsの目標達成につながることを実感できるような、暮らしや営みの中にSDGsがいきづいている村に育んでいきます。

## 川上村のSDGs

S=主役は自分  
D=できることから  
G=ゴールをめざそう！  
s=水源地の村から世界へ

地球環境の持続的な保全につながる

環境のことについて楽しみながら取り組む

暮らしや営みの中にSDGsがいきづいている

ESD  
For 2030

## Ⅱ. 推進方策

### <計画推進の枠組み>

#### 自分の目標を定めて進み、ふり返り、共有する

本計画推進にあたっての基本的な枠組みは、次のとおりです。

##### (1) 環境の手引き

10年後にめざす川上村の「環境」の姿について目標設定しています。

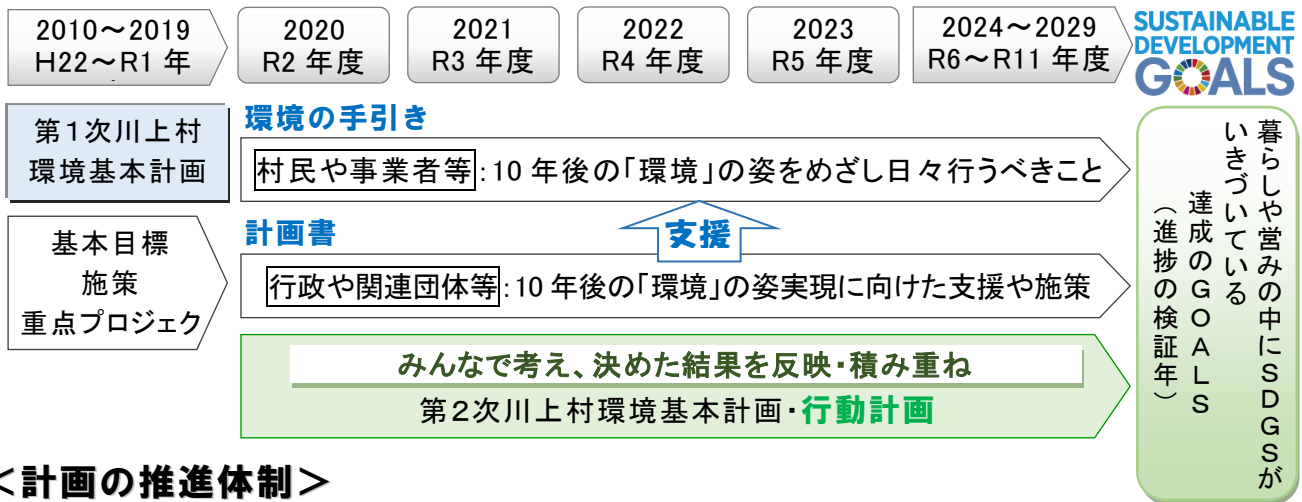
##### (2) 計画書

個人や事業者等の取り組みを実現に導く行政や関連団体等の支援や施策を整理しています。

##### (3) 行動計画

10年後にめざす川上村の「環境」の姿に対して、本村の環境への取り組みをみんなで考え、実行していくためのプログラムを『行動計画』として位置づけます。

図 計画の枠組みと運用イメージ



### <計画の推進体制>

#### 「気になること」が集まる“場”をつくる

本計画の進捗管理にあたっては、自分ごととして取り組む一人ひとりの活動をみんなが共有し、自分だけでは解決できないことや、環境のことで気になることは、その声が公の場に集まり、その対処方法をみんなで考えて決めていく「気運＝仕組」を整備します。

図 推進体制のイメージ





# Ⅲ. 計画の大綱

## <計画の体系>



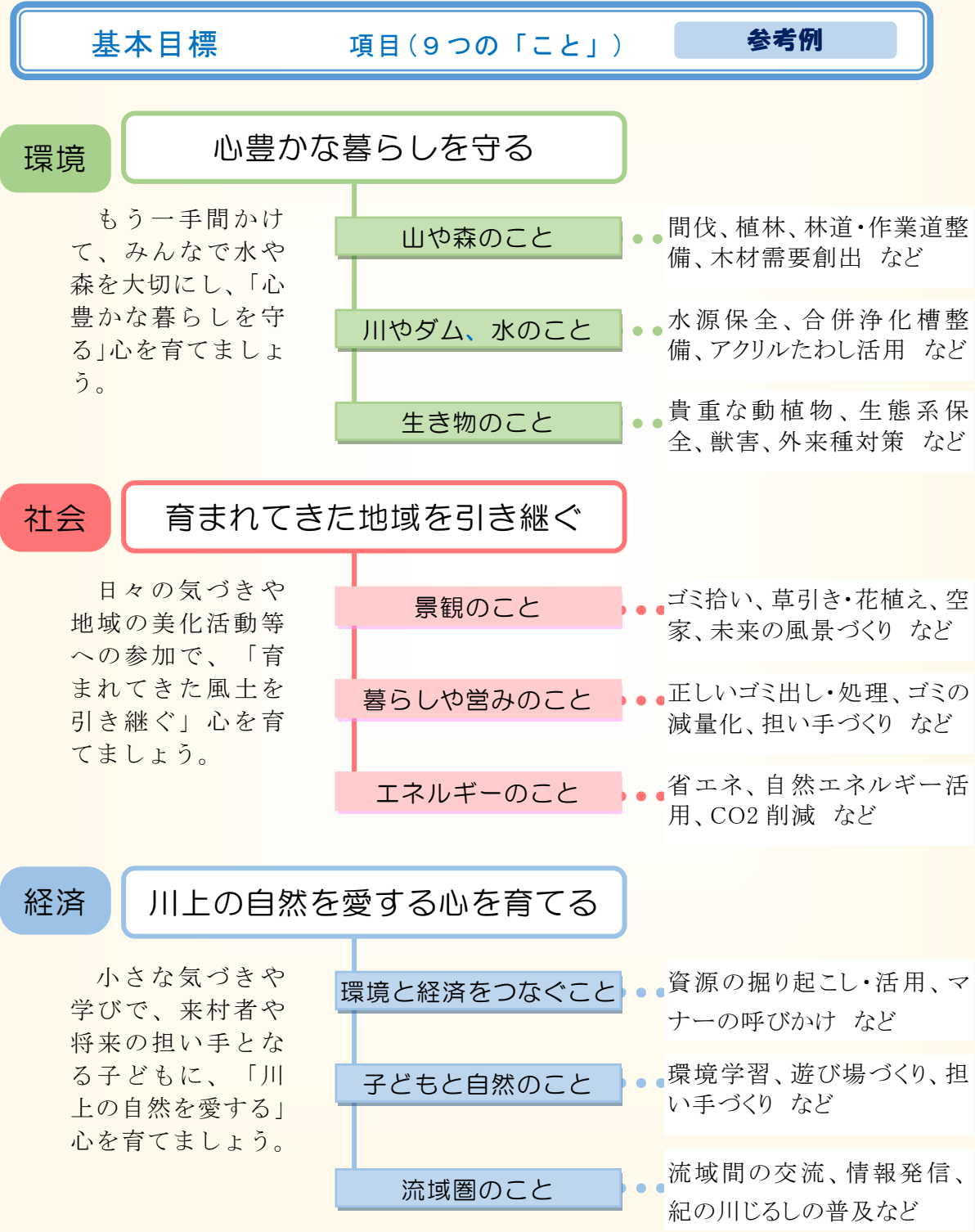
「9つのこと」に「自分ごと」を見つけよう

本計画の計画体系は次のとおりです。

### 第2次川上村環境基本計画

#### ◆アプローチ◆

自分ごととしての日々の取り組みから、地球環境の保全につなげる



## IV. 取り組み

### 環境

#### 1 山や森のこと



##### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① 土砂災害や倒木などによる停電、集落の孤立など村民の生活に支障を及ぼすような大規模な自然災害が起こらないようにするため、身近な森林環境を維持します。
- ② 村有林や民有林を長期にわたり維持管理するための担い手や、景観林として雑木の育成を進めるなどの仕組みが、各地域ごとの森の特徴に応じて、見える形にします。
- ③ 森林の皆伐後は植林し、適正に育林できるような森の循環を守るため、川上産吉野材の販売促進活動を進め、産業として雇用できるようにします。

##### みんなで話し合って決めていくこと

- ・三之公地区「水源地の森」の川での禁漁について
- ・人工林（生産林）から雑木林（環境林）への移行について

#### 2 川やダム、水のこと



##### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① 村民の身近な暮らしを守る観点からの森林環境の保全に特に配慮し、山林の水源かん養機能、水質浄化機能を回復させ、村民の安全な暮らしとともに清らかな水を下流に流します。
- ② 支流の谷水だけで生活用水を賄っている村民や事業者として、水を大切にし、きれいな水を川に戻すという習慣を身につけ、清らかな水がもたらす豊かな自然に抱かれた環境を守ります。
- ③ 河川沿いやダム沿いの無機質な構造物を水質浄化機能のある構造や技術等の活用により修景し、澄んだ水が楽しめる水辺へと徐々に回復させます。

##### みんなで話し合って決めていくこと

- ・環境にやさしい台所の洗剤の使用について
- ・水質浄化機能の働いた、美しいダム湖面の維持について

#### 3 生き物のこと



##### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① シカ、イノシシ、サル、カラスなど、農林業を阻害する有害鳥獣への対策を継続できるよう担い手を育みます。
- ② 川上村の貴重な自然環境の基盤となっている生物多様性について、希少種などの調査、情報収集及び村民向けの情報を発信します。
- ③ 紀の川の源流、川上村を拠点とし、水源地と川の流れが結ぶ森・里・海のつながりが見える化し、地域の持続的な農林漁業の営みにより生態系の保全にも貢献します。

##### みんなで話し合って決めていくこと

- ・捕獲した鳥獣の、ジビエ（野生鳥獣の肉）としての有効活用について
- ・水源地の村として、有害鳥獣との共存の在り方について

## 1 景観のこと

### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① 空き家やその所有者の土地などが集落の生活環境等を阻害しないよう、見守りができる仕組みづくりを我が集落でつくります。
- ② 清掃・雑草の刈り取り、ごみ拾い等環境美化活動を、わざわざすることではなく、暮らしや営みの中で日常的に行い、豊かな暮らしの自慢の一つとなるようにします。
- ③ 心のふるさととしての川上村の風景を懐かしく思えるような原風景を守り、育み、全国に発信します。



#### みんなで話し合っ決めていくこと

- ・国道169号沿道の、看板の整理や眺望を楽しめる場所づくりについて
- ・人工林（生産林）から雑木林（環境林）への移行について（再掲）

## 2 暮らしや営みのこと

### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① ごみの分別、食品ロス削減などを面倒と考えずに快適な暮らしにつながることで、村民全員による水源地の村づくりとして心がけ、自らの気づきで進めます。
- ② かわかみらいふなどを活用し、環境にやさしいライフスタイルを続け、便利で充実した暮らしを守ります。
- ③ 川上村の自然環境を守る担い手づくりにむけて、転入者、出生者数とも増加を維持します。



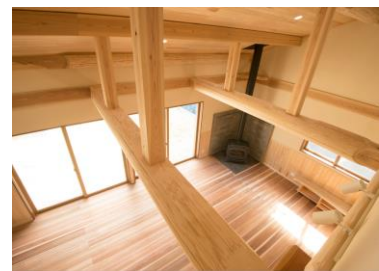
#### みんなで話し合っ決めていくこと

- ・食品ロスへの配慮、ごみの分別、ゴミ拾いなどをみんなが徹底することについて
- ・高齢者のゴミの出しの支援と、地域での支え合いについて

## 3 エネルギーのこと

### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① 水源地の村の住民として、出来る限り自然環境に負荷を与えない暮らしや活動に心がけ、美味しい水や空気、肥沃な土壌などこの豊かな自然の恵みを将来にわたり享受します。
- ② 川上村の気候風土にあった、省エネにも貢献し、快適な暮らしを守る地域型住宅の供給を進め、村民にも浸透し定着させます。
- ③ 二酸化炭素の吸収源として、また、再生可能エネルギー源（バイオマス）として森の循環を守るなど、地球環境保全に向けエネルギーの自立を進めます。



#### みんなで話し合っ決めていくこと

- ・間伐材等を活用した木質バイオマスの発電・熱利用と持続的な産業について
- ・二酸化炭素吸収源対策としての持続的な森林管理について



## 1 環境と経済をつなぐこと

### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① 川上村の自然や歴史、催事などについて関心を持ち、学び、自分の言葉で伝えられるようにします。
- ② 川上源流ツーリズムの実施により、健康や環境に関心の高い人々を気兼ねなくもてなす村として知ってもらい、渋滞や放置ごみなどをなくすきっかけにするとともに、地域経済にも結びつけます。
- ③ 川上村のファンを増やし、環境学習やCSR活動の場として、多くの大学や企業を受け入れます。



#### みんなで話し合っ決めていくこと

- ・夏季における、中奥谷や上多古川沿いなどの違法駐車対策、ゴミ放置対策について
- ・来訪者に対する、環境保全協力金としてのゴミ袋の販売について

## 2 子どもと自然のこと

### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① 川上村の暮らしに豊かな恵みをもたらす山や川などの自然環境がより身近に感じられ、山や川で遊ぶ子どもや家族の姿がみられるようにします。
- ② 自然豊かな川上村で、ゲームでも遊ぶが、山や川などの自然でも遊び上手な子ども、畑での野菜づくりや柿の葉寿司づくりなども出来る親子など、川上村の自然を楽しむ担い手を育みます。
- ③ 川上村の豊かな自然や文化を将来にわたり守り続けるため、(公財)吉野川紀の川源流物語と連携し、吉野川・紀の川や水のつながりを教材化し、川上村とのつながりが村内外で相互に理解できる学習を進めます。



#### みんなで話し合っ決めていくこと

- ・子どもが気軽に山や川で遊んで、自然を満喫できる場所や方法について
- ・川上らしさを実感できる学校教育のカリキュラムについて

## 3 流域圏のこと

### 10年後までにめざす川上村の「環境」の姿

- ① 吉野川・紀の川の流域や全国の源流の郷住民と一緒に、各市町村の地域を相互に第二の故郷として愛し、自分ごととして、各地域づくりに関心を持ち、様々な形で環境保全活動に協力します。
- ② 吉野川・紀の川の豊かな川の流れに支えられた地域の「恵み」をブランド化した、「紀の川じるし」をきっかけとして、流域を訪れ買い物や旅行などを楽しむネットワークづくりを、日常的なものにします。
- ③ 紀の川の源流、川上村を拠点とし、水源地と川の流れが結ぶ森・里・海のつながりをわかりやすく流域住民に情報発信するとともに、地域の産業にかかわる資源を活かした環境教育を進めます。



出典：環境省ホームページより

#### みんなで話し合っ決めていくこと

- ・和歌山や大和平野などの流域からの主体性を引き出すことについて
- ・流域間の連携（恵み）をより村民に身近に感じてもらうことについて